



第7回 聖路加看護学会学術大会(終了)

第7回を迎えます聖路加看護学会学術大会のご案内を申し上げます。

医療の世界では、昨今、Evidence-Based Medicine (EBM) が主流となっております。看護実践は根拠に基づくものでなければならず、その科学性が問われています。しかし、その一方でNarrative-Based Medicine (NBM) が医療の人間化に重要であるという考えも提示されています。人間はそれぞれ、自分の「物語り」を生きており、「病気」もまた、その物語の一部であります。治療を受ける側が自ら語り出す「ナラティブ」を重視し、対話を臨床実践に生かすことは、人間の全体性へのアプローチに価値をおく看護実践において、きわめて中心的な営みといえるでしょう。さらに、このことが医学モデルではない看護モデルとしてのユニークな表現方法に通じるものと思います。看護モデルに基づく記述は、日常の看護記録に関連し、更に看護研究の文体にも通じるものと思います。

看護の文体はどうあるべきかを察知して、いきつくところは「文学」です。本学会で特別公演をお引き受けいただいた大江健三郎先生は、「小説家が narrative を作る工夫をしますのは、人、この世界と関係を作る (relate) するためです。そのための場所を構築し、維持し、つねに新しくするためでもあります。」と述べています。こうした「手法」はナースたちが日々、患者との関係性を築いていく時に用いる手法であります。文学の読み取りから、narrative の普遍的な意味を考慮し、看護の手法として価値づけたいと考えています。

以下に、学会の予定をお知らせいたします。多くの方のご参加と発表をお待ち申し上げます。

↑ TOP

■ 詳細

テーマ:「看護と文学」

会 期:2002年9月28日(土) 9:30 ~ 17:00

会 場:聖路加看護大学

東京都中央区明石町10-1

交通手段:営団地下鉄日比谷線 築地駅 徒歩3分

営団地下鉄有楽町線 新富町駅 徒歩5分

大会長:井部 俊子(聖路加国際病院)

↑ TOP

■ プログラム

会長講演:「看護における物語り性の追求」

会長 井部 俊子(聖路加国際病院)

特別公演:「語る人、看護する人」

大江 健三郎

シンポジウム:「患者が語る物語・看護師が語る物語」

一般演題:(口演/示説)

[▲ ページトップへ](#)

[学会について](#) | [入会案内](#) | [お問合せ](#) | [よくある質問](#) | [学術大会](#) | [ニュースレター](#) | [学会誌](#)

St. Luke's Society for Nursing Research | [サイトマップ](#)